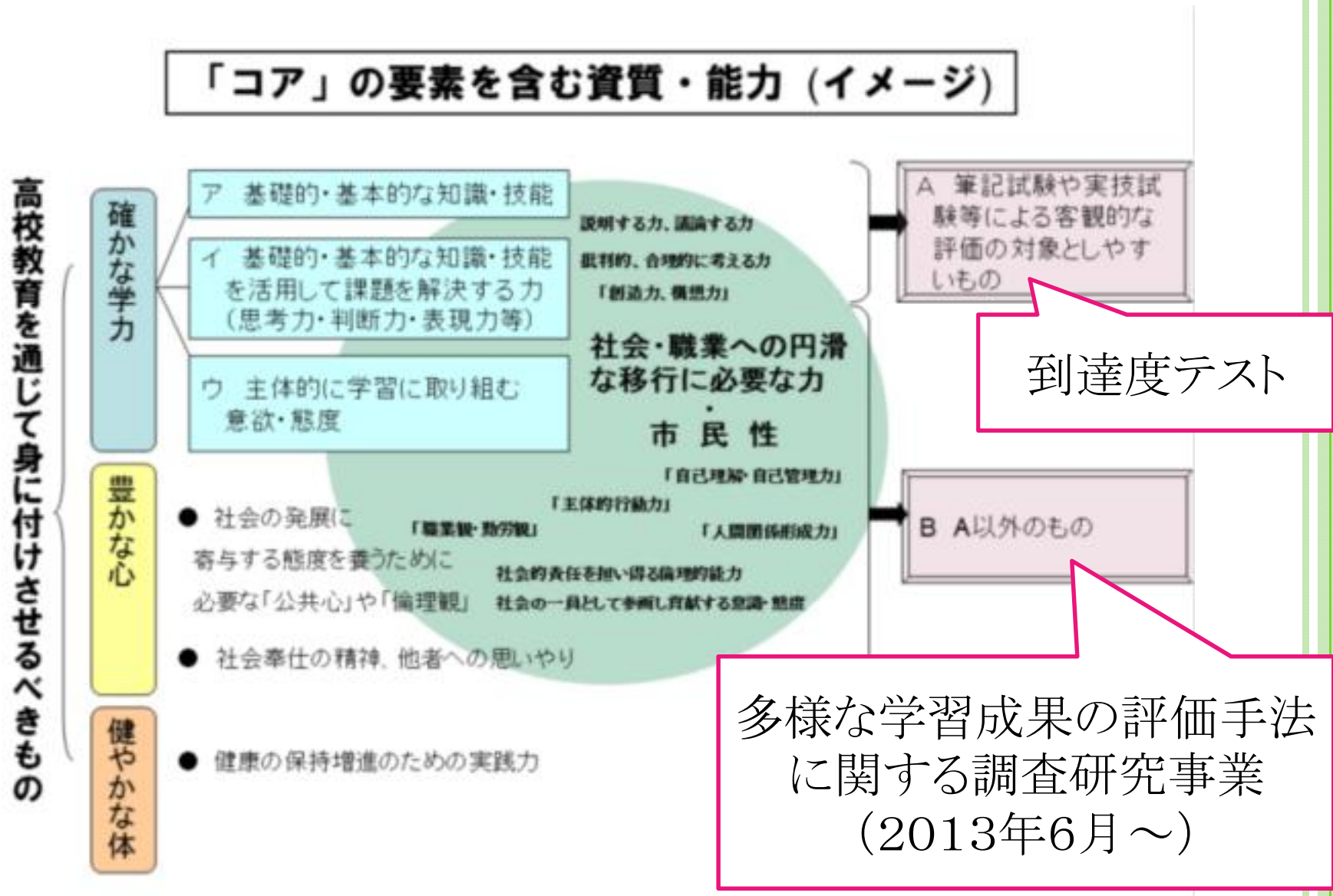


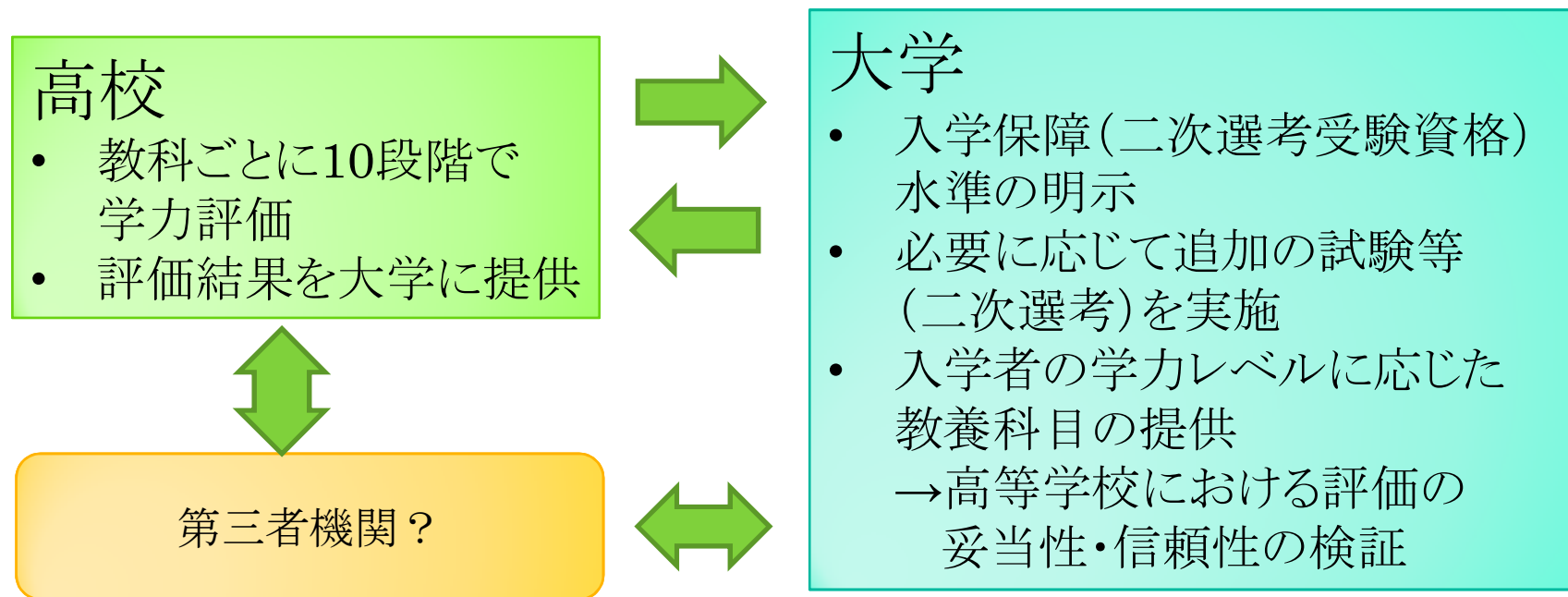
(2)「初等中等教育分科会高等学校教育部会の審議の経過について」(2013年1月28日)



(3) 高校における評価の改善

◎「高大接続評価システム」の提案

(西岡加名恵、中教審高大接続特別部会(2013年5月24日)配布資料より)



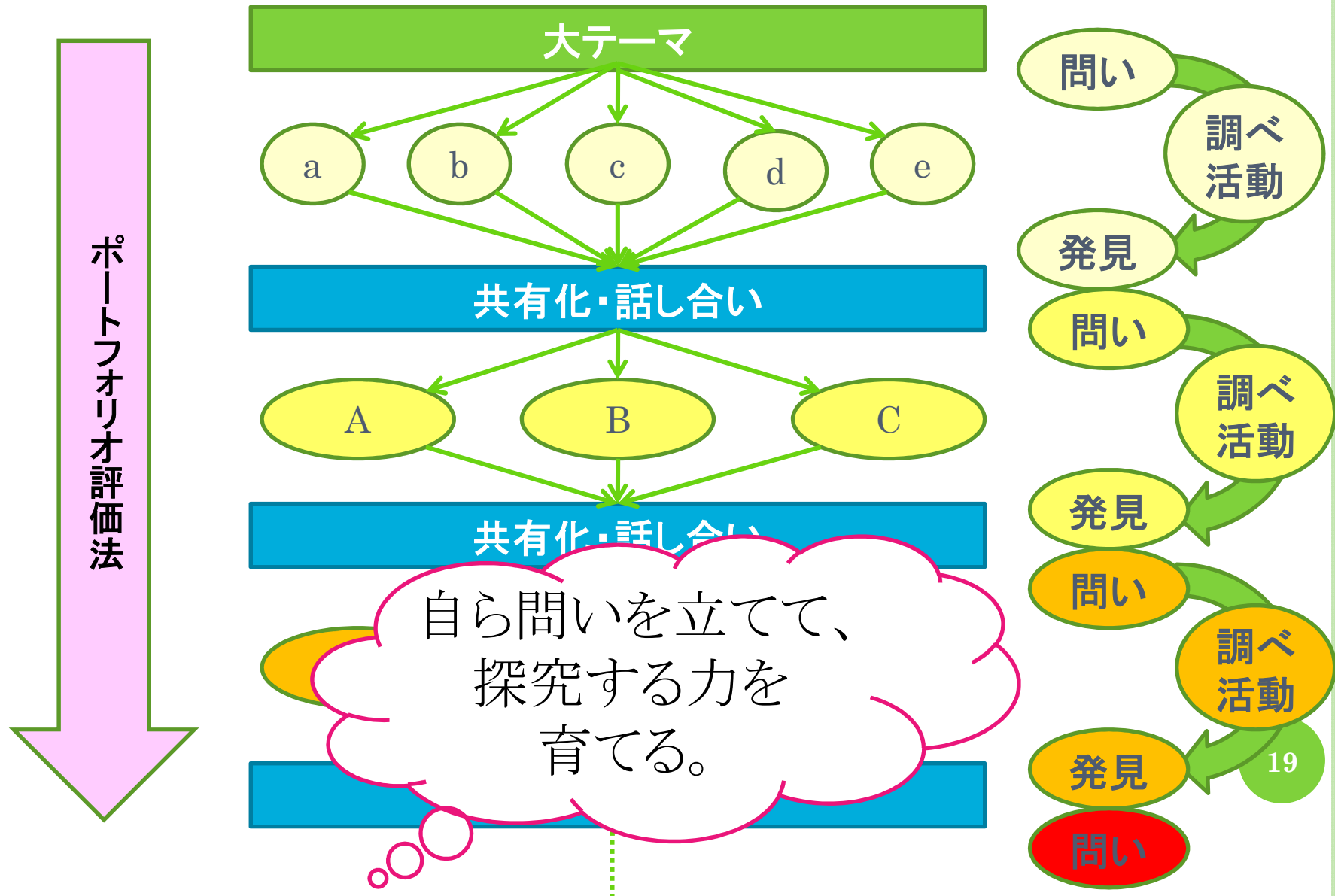
※「調査書」を信頼できるものにする(センター試験は併存? 廃止?)

※序列化・選別の入試から資格型入試への転換(受験生と大学とのマッチング)

※「高大接続評価システム」と、現行の入試システムのそれぞれに定員を割り振ることで、受験の複数機会を確保することも可能

3. 「総合的な学習の時間」を引き続き重視する

(1) 「総合的な学習の時間」の独自性



(2)「総合的な学習の時間」の意義

- 目標：「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」
- 「関心・意欲・態度」を評価する時間としても機能する(記述式で)。
- 価値判断の力を育てるためには、カリキュラムを細切れにするよりも、特別活動や「総合的な学習の時間」の充実を図る方が有効だと考えられる。

4. カリキュラム全体で、重要な汎用スキルやテーマを位置づける

(1) 重要な汎用スキルやテーマを学習指導要領で例示する

○ 汎用スキルの例

- 自律的な問題解決力、自己学習力
- 批判的思考力
- コミュニケーション力
- グループワーク、チームワーク など

○ 重要なテーマの例

- 人権、生、キャリア、市民性
- 平和、国際理解、異文化理解
- 環境、持続可能な発展、防災 など

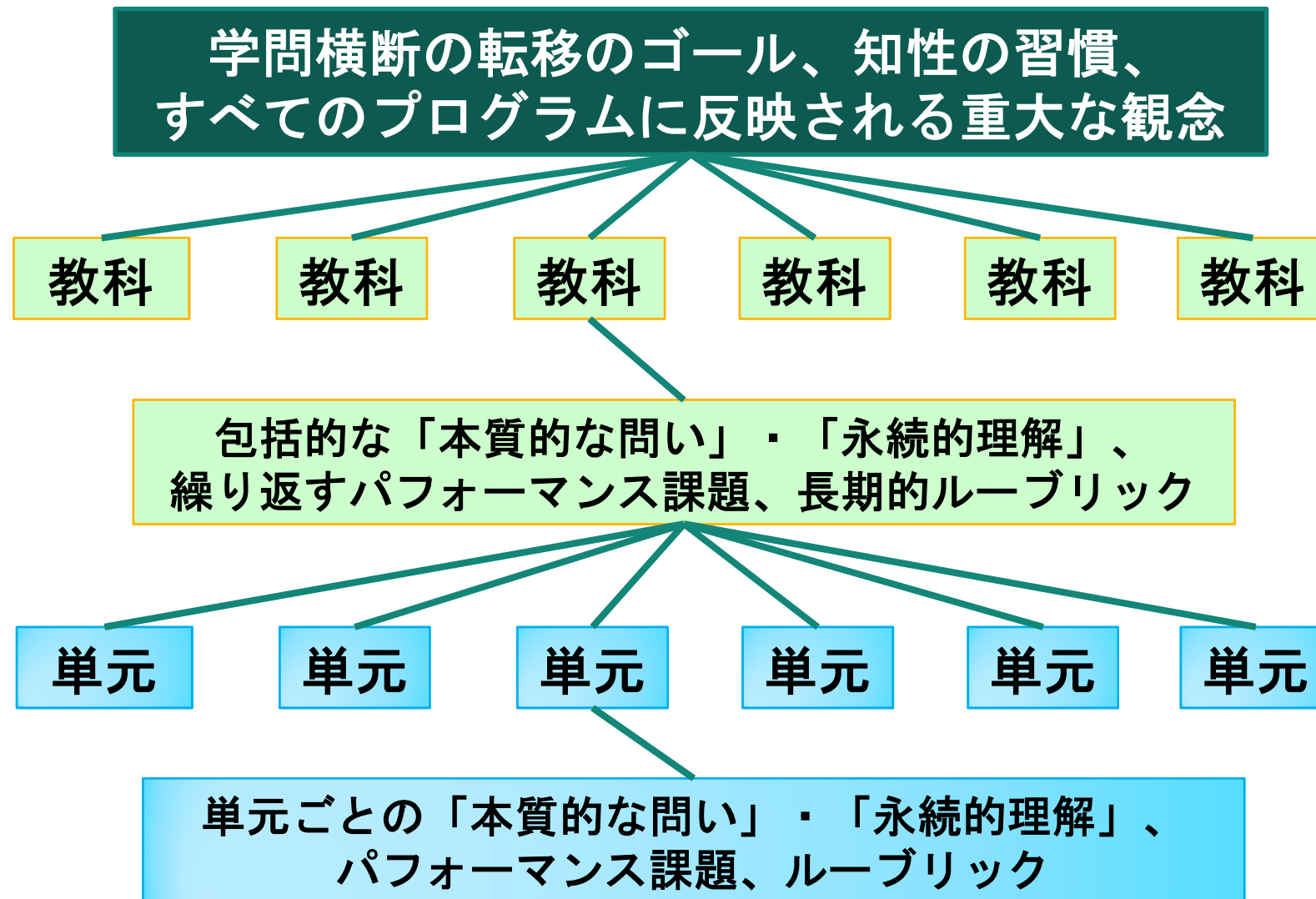
(2) パフォーマンス課題と、 汎用スキルやテーマとの関係

- パフォーマンス課題： 総合的な課題
 - ← 複数の汎用スキルが織り込まれる。
 - ← 「真正性」の高いものでは、何らかのテーマが扱われる。

Cf. 「真正の評価」論：現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの

- ※ 課題に取り組ませる中で、汎用スキルの習得状況や、テーマに関する認識の深まりを評価することができる。
- ※ それぞれのスキルやテーマを個別に独立させて扱うのは、非効率であり、教育効果も低い。

(3) 「ミッションに基づくカリキュラムの枠組み」



(Wiggins, G. & McTighe, J., *Schooling by Design*, ASCD, 2007)

(4) ポートフォリオを活用する可能性も

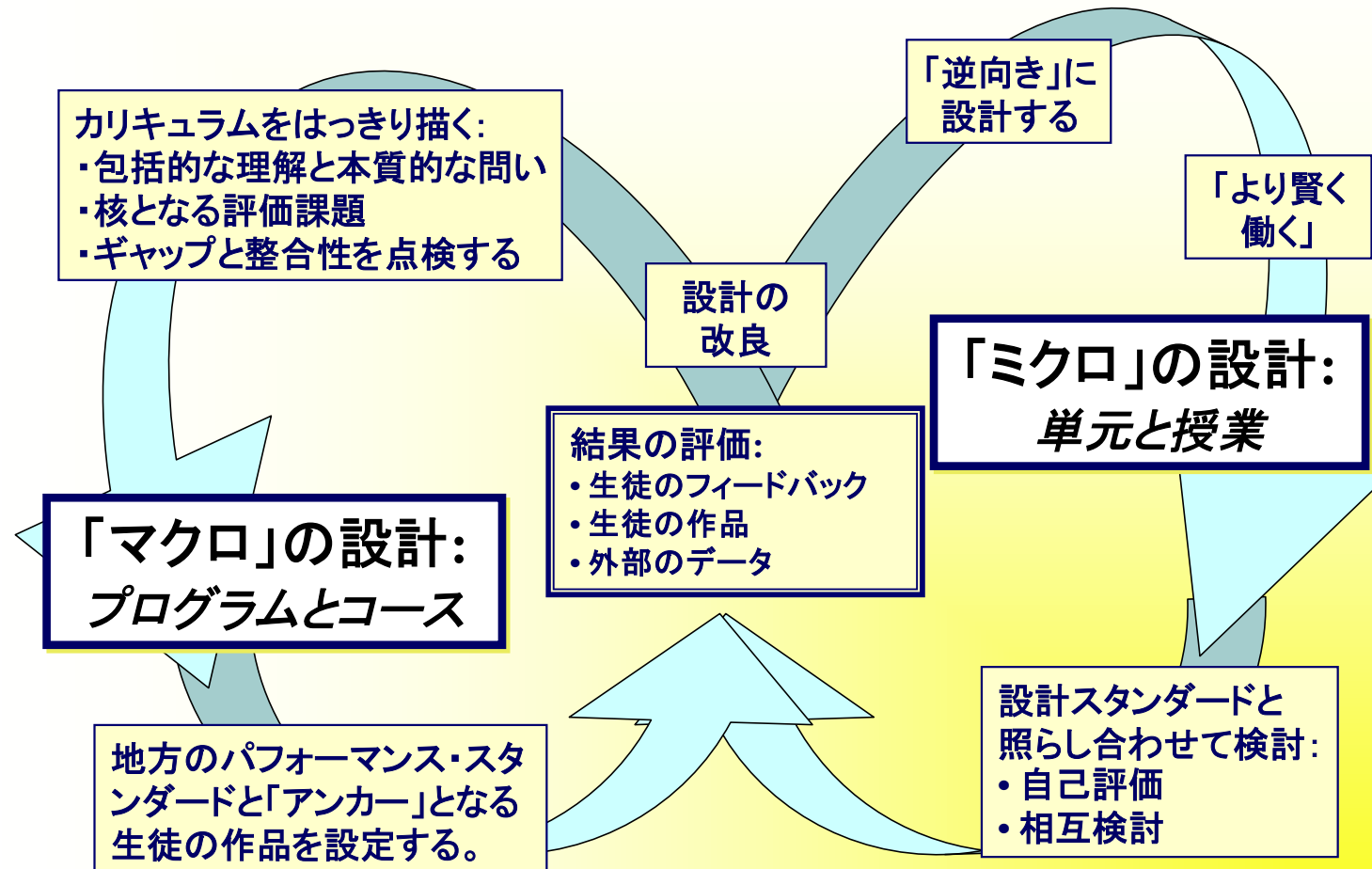
◎カリキュラムのどこかで扱う汎用スキルやテーマについての成果資料を蓄積する。



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年も参照)

(5) 「ミクロな設計」と「マクロな設計」を往復させる

「逆向き設計」: ミクロとマクロ



(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design: Overview 2002*, PowerPoint Slides, 2002, p.111)

5. カリキュラム編成のシステムを どう構想するか？

(1) スタンドアード作りのシステム

- スタンドアード：
社会的に共通理解された目標＝評価規準・基準
←“諸刃の刃”
必要以上に拘束すれば、
現場の創意工夫が損なわれる危険性。
質の悪いスタンドアードを強制すれば、
質の悪い実践が広がる危険性。
- いわゆる“トップダウン”と“ボトムアップ”の往還
原案の策定と現場への提案、現場における実践に
もとづくフィードバック、原案の改訂・再提案・・・

CF. E.FORUMスタンダード作りのプロセス

- ① 「カリキュラム設計データベース(CDDB)」(現在は「E.FORUM Online(EFO)」)への実践資料の蓄積
- ② 『スタンダード作り「基礎資料集」』の作成
- ③ 2010年度フェスタでのシンポ
「スタンダード開発の可能性と課題」
→算数・数学、国語、英語
- ④ 2011年度フェスタでのシンポ
「活用すべき基礎・基本とは何か？：
各教科等のスタンダードを探る」
→社会、理科、芸術・実技系教科、総合
- ⑤ 2012年度フェスタでの教科等別分科会
- ⑥ 2013年度フェスタでの教科等別分科会
→年度末までに成果(第1次案)をまとめて公開予定。

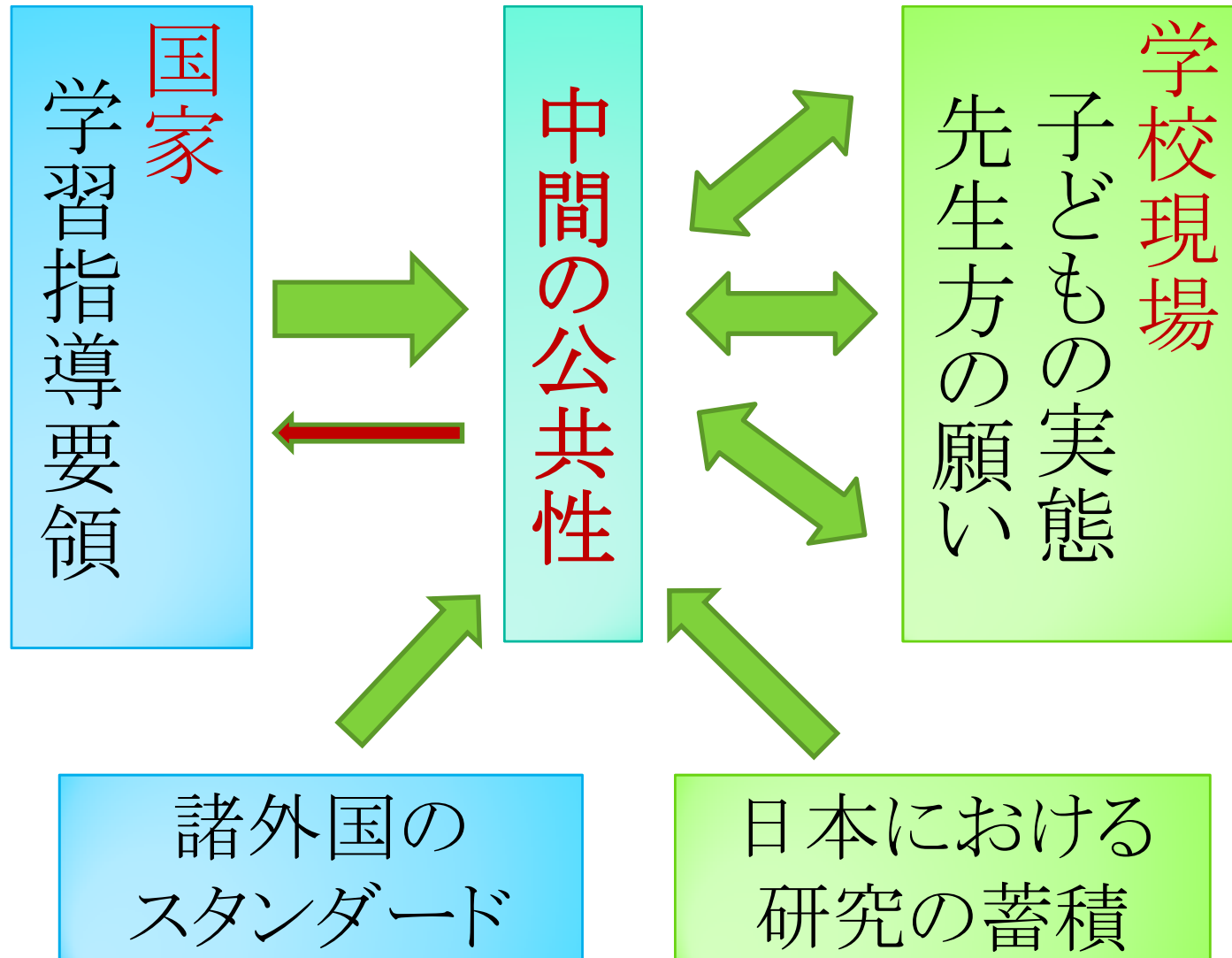
現場の知見の
集約

草案の提案

現場からのフィードバック、練り直し

研修としても
有意義

◎中間の公共性



◎研究の必要性

- 諸外国では、研究的にスタンダード開発が進められている。
→たとえば、オーストラリアのナショナル・カリキュラムの開発・実施・評価プロセス。
(国立教育政策研究所による第6回検討会報告参照)
- 学習指導要領の改訂作業の前に、本格的な国際調査や開発研究が必要。
→参考資料の作成
→必要最小限を学習指導要領で規定

※たとえば、どれぐらいの期間を見通して長期的
ルーブリックを取り入れることができるのかは、未解明。

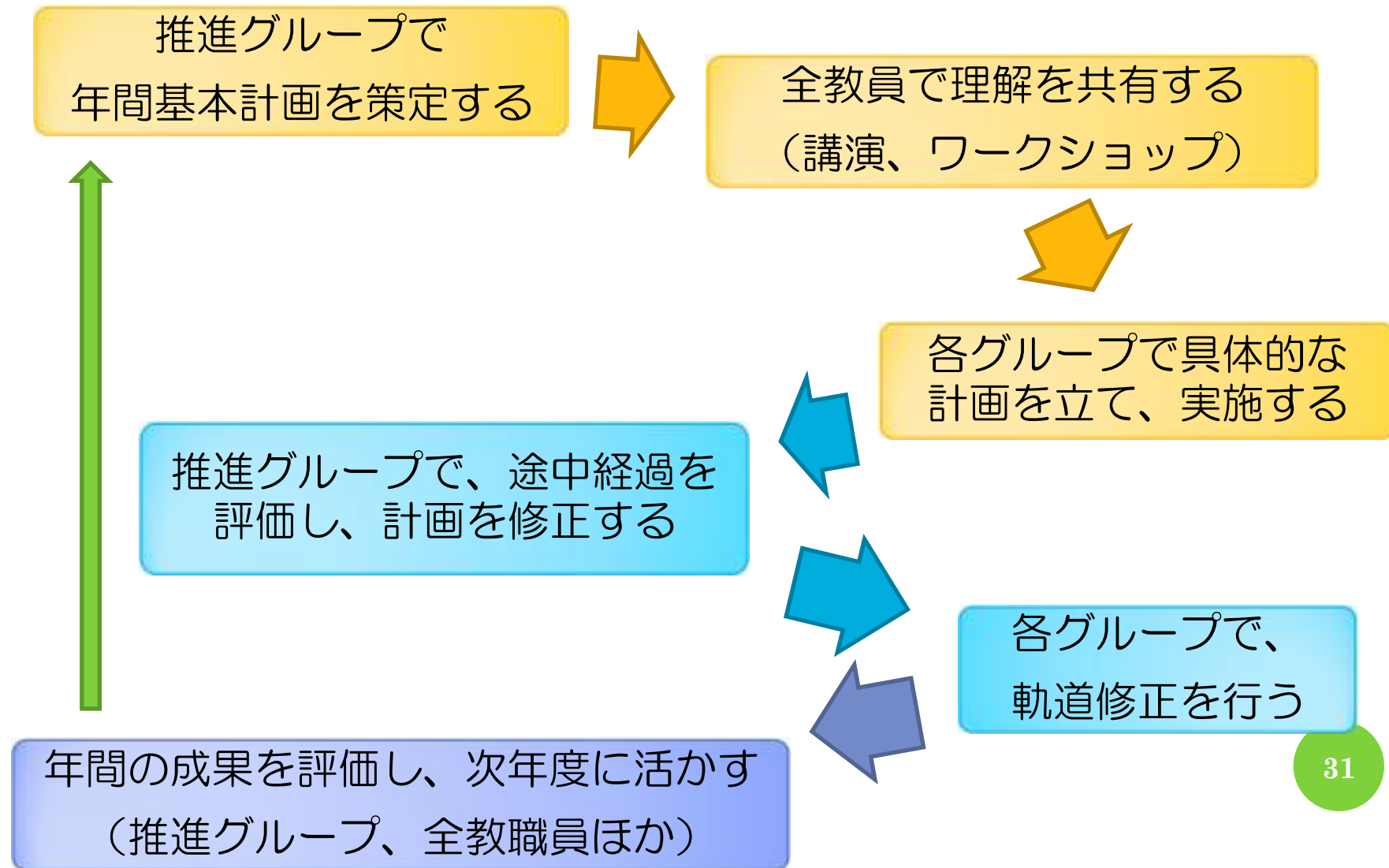
Cf. 鈴木秀幸『スタンダード準拠評価』図書文化、2013年

		低学年レベル			中学年レベル			高学年レベル					中学校レベル				
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本 レ ベ ル	1	○															
	2		○		○			○									
	3			○		○			○								
	4						○			○			○				
	5										○			○			
	6											○			○		
																	○

小学校から中学校まで、一貫した
レベル分けで捉えるという提案
Cf. イギリス、西オーストラリア州など

研究・検証
が必要。

(2) 各学校のカリキュラム改善の進め方についての参考資料も有意義だと考えられる。



< 主要参考文献 >

- ① 西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年
- ② 宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年
- ③ 西岡加名恵編著『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書、2008年 ～小学校4教科、中学校5教科の実践など。
- ④ 西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年 ～中学校全教科のパフォーマンス課題とルーブリックなど。
- ⑤ 堀哲夫・西岡加名恵『授業と評価をデザインする 理科』日本標準、2010年
- ⑥ 西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック—ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年
- ⑦ G.ウィギンズ、J.マクタイ(西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計—「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年